

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 鈴木富美子議員の質問

○平 進介議長 次に、順位8番、議席番号10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 午後の質問となりますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

今年の冬は大雪となり新型まして、去年の暖冬とは大違いになりました。新型コロナウイルス感染症もなかなか終息を見ない中、せめて心が折れないよう日々の生活を送っている毎日です。

また、2月13日午後11時8分頃、福島県沖を震源とする地震が起き、10年前の東日本大震災の恐怖がよみがえってきたところです。そう考えますと、今は何が起こっても不思議ではない世の中だと、私たち自身が感じ取るしかありません。

3月定例会は、新型コロナウイルスワクチン接種に関する質問と、新型コロナウイルス感染症拡大により自粛した自営業者、市民への影響、今後の支援についてと新市庁舎に関する質問をいたしますので、よろしくお願いいたします。

初めに、新型コロナワクチン接種については、国の報道の情報が二転三転し、市民の方に詳しい情報が行き渡らず、不安だと思います。厚生常任委員会協議会におきまして説明がありましたが、再度確認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、65歳以上は集団接種とのお話で進んでいるようですが、会場は置賜生涯学習プラザと吉川記念病院で変更はございませんか。健康課長にお聞きいたします。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 まず初めに、市では1月15

日に新型コロナウイルスワクチン接種対策室を設置いたしまして、今まで3回の対策室会議を開催いたしますとともに、担当ごとに打合せを重ねるなど、様々な課題業務に取り組んでいるところでございます。市におきまして、集団接種について医師会にご協力の依頼をし、準備を進めてきたところでございます。

65歳以上の高齢者へのワクチン接種につきましては、ファイザー社製のワクチンということで、そのワクチンの温度管理、品質の管理、また効率的な接種ということで、一度に多くの方への接種が可能な医療機関でございます吉川記念病院と、市において開設する特設会場としての置賜生涯学習プラザ、舞と音楽のホールの集団接種を想定しているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 そうしますと、会場までの交通手段ですが、基本的には自分で会場に足を運んでいただくとお聞きしました。接種人数は吉川記念病院で1日300人、置賜生涯学習プラザでは120から240人とお聞きしましたが、駐車場なども含めてきめ細やかな対応が必要だと思います。バスの利用などは考えておられないのでしょうか。自分で来られない方はタクシー代の補助を考えているとのお話もお聞きしましたが、健康課長の考えをお聞きいたします。

また、自宅で寝たきりの状態の方などへの接種についても、どのようになさるのかお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 会場への交通手段につきましては、交通手段のある方は会場にご来所していただくこととなりますが、会場への交通手段をお持ちでない方への支援は必要であると思っております。輸送手段については、バスでの送迎を検討しているところでございます。この間、いろいろな方法を検討してございましたが、一つ一つ課題を整理しているところでございます。

なお、詳細についてはこれから詰めてまいりたいと存じます。

寝たきりの方への接種につきましては、ワクチンの品質管理、また希釈してからの時間制限など、接種人数をまとめて打つなどの様々な課題がございますので、今後、国、関係機関と連携して方法を検討してまいりたいと考えてございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 やはり取り残しのないような工夫をなさっていただきたいと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、集団接種についてはシミュレーションを行うとのことをお話をお聞きしましたが、状況はいかがでしょうか。既に行っていましたら、行った際の問題点や改善点はあったのか、あった場合の改善方法についてを健康課長にお聞きいたします。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 シミュレーションにつきましては、適切な時期に正確な内容でまず庁内シミュレーションを実施いたしまして、接種会場の設営、接種手順、人員配置を確認し、課題等の整理を行っております。

庁内シミュレーションを実施した後、必要に応じて関係機関との合同シミュレーションの実施について検討したいと考えてございます。

接種の流れといたしまして、会場入り口での検温、受付、誘導、また、事前に記入してご持参いただくこととなります予診票の確認、また、接種後にワクチンの種類や接種日を記載した接種済証の接種者への発行など、そこら辺の課題を中心に接種後の課題等を確認してまいりたいと思ひてございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 今のところ、いつ頃を想定されてますか。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 国のほうから新たに接種管理記録システムということで、誰がどこで打ったかを一元管理するシステムを導入するように連絡が来てございまして、そのタブレットの配布等、3月の下旬頃になるということでございますので、それ以降と見込んでございまして、事前に課内でのシミュレーション、庁内シミュレーションのほうは少しずつ進めていきたいと考えてございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 なかなか分からないことで大変だと思いますけども、国と連携を取りながらぜひ頑張ってやっていただければと思ひます。

次に、65歳以下の個人接種についてお聞きしますが、個人医院への対応をしていると思ひますけども、どのような対応なのかお聞きしたいと思ひます。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 高齢者の期間中の個別接種につきましては、さきにお伝えいたしましたとおり、ファイザー社製のワクチンを接種することになりますので、超低温での温度管理、品質管理を考慮し、効率的に接種し、ワクチンの無駄を減らすために、今のところ集団での接種を考えてございます。今後、温度管理の比較的容易なアストラゼネカ社製のワクチンのほうが薬事承認され供給される際には、個別医療機関でのワクチン接種が可能になるように取り組んでまいりたいと考えてございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 なかなか目に見えなくて大変ですが、個人の先生にも協力していただく必要があると思ひますので、その辺しっかりと連絡を取り合ってやっていただければと思ひますので、よろしくお願ひします。

例えば65歳以上で、どうしても個人医院を希望されるという方がいらっしゃれば、それは可

能なのかどうか、課長にお聞きしたいと思いません。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 今お答えいたしました、取りあえずファイザー社製のワクチン接種を想定しておりますので、今のところは集団接種で効率的に多くの方に受けていただくような計画でございます。なお、詳しいご案内文書を添付、送付しまして、接種券と一緒に予診票を個別郵送することになってございます。予診票にはあらかじめご自身で記載の上、接種会場にご持参いただきますが、アレルギーや慢性の心臓病、肝臓病、糖尿病などの基礎疾患をお持ちの方など注意が必要となる方は、事前にかかりつけ医でワクチン接種についてご相談の上、集団接種会場で受けていただきますよう、市報、ホームページ等で周知を図ってまいりたいと思っております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 分かりました。ありがとうございます。ワクチン接種は強制ではありませんが、やっぱり今、特効薬がない現状で、接種することによりまして発症しにくくなったり重症化にならないことで、皆さんが接種すべきと私は思いますが、一人でも多くの市民に接種していただくような施策をしっかりといただきまして、正しい情報を伝えていくことが必要と思いますが、市長の考えをお聞きしたいと思えます。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えを申し上げます。

議員からは、多くの方にワクチン接種を促す施策についてどのように考えているかということでございますけれども、鈴木富美子議員おっしゃるように、新型コロナウイルス感染症については、これはやっぱり一旦かかって免疫を持つか、あるいはそれに代わるものとしてワクチンを接種してかからないように、なおかつ

場合も重症化しないような、そんな手だてしか方法はないんだと思います。パンデミックになりますと、ウイルスがなくなるのを待つなんていうのはもう現実的ではありませんので、いたがいて、富美子議員おっしゃるとおりでございますけれども、昨年11月、12月あたりまで、いわゆる世論調査を各マスコミ等々でいろいろなさっているようでございますが、その当時の日本での接種希望者というのは3割、4割にとどまっていたと。やはりいろんな情報が錯綜して正確な情報がないということから、なかなか慎重な意見が多かったんですけども、今年になりまして、1月あたりの世論によりまして、6割、7割の方が受けて、あるいは受けるべきだと思っているというような状況でございますので、大分意識が変わってきたと思えますが、先ほど来、健康課長のほうでもお答えさせていただきましたように、いわゆる医療評論家とか大学の教授とかいろんな考え方あるわけですから、その部分は私どもとしては、厚生労働省の情報を受けて、例えば問合せなどについて、副作用とか副反応と言われる部分について大分分かってきてますんで、その辺を詳しく情報を提供するとともに、やっぱり私ども長井市でも一般市民向けで、いろんな手法、あやめReP oとか、あるいはホームページ、SNS、LINE等々で、やっぱり幅広く安全であるということ促すことが、まず啓蒙させていただくことが一番大切だと思っております。

なお、全国で一般の方の接種が始まるということで、ちょっと前までしきりに言われてたのは、接種された方に、普通の都市自治体ではなくて、ある町だったと思えますけれども、500円の商品券とか1,000円の何か券みたいなので推進を図るということもあったようでございますが、私どもとしては取りあえずはまずしっかりと正確な情報を提供し、市民の皆様にご接種いただくように働きかけをしてまいりたいというふ

うに思っております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 やはり接種する側も不安で、あまりにもメディアが副反応がどうか、いい方向じゃないほうに捉えがちな情報なので、メディアにとられることなく、やはり長井市としてのきちんとした情報、接種打つてからもいろんな情報つかんでいただきまして、ぜひ、正しい情報を市民に流していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。1番目につきましては、以上でございます。

2番目につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大におきまして、自粛を余儀なくされました飲食店等への支援についても併せてお聞きしたいと思います。

長井市といたしましては、経済支援として無担保、無利子の地域経済対策資金融資、飲食店の店舗賃貸料支援、テークアウト、デリバリー支援、ハイヤー協議会への資金貸付け、また、新生活様式対応、まちなか活性化補助金、宿泊施設経営維持資金などの支援を行ってまいりましたが、今後の支援について改めてお聞きしたいと思います。自営業の中にはいろいろな業種がありますが、コロナ感染症による業種の冷え込み等をどの程度把握しているのか、商工観光課長にお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 市内業者の業種別の冷え込みの把握をどのようにしているかというご質問にお答えさせていただきたいと思っております。

市内の事業者の景況につきましては、商工観光課といたしましては、関係機関である長井商工会議所あるいはハローワーク長井などの機関、それから実際に事業を行っている事業者の方から直接お聞きした内容などがあります。そのほかに、商工観光課で担当している、先ほどありましたとおり制度融資、それから保証認定制度、こちらの申請を商工観光課のほうで受け付けて

おりますので、そこから見える市内の状況についてお答えさせていただきたいと思っております。

まず、振り返りになりますが、全体の状況ですが、昨年の3月から感染症対策として様々な催し、イベントなどが中止されてきました。その結果、消費が著しく低迷してきたということでございます。そのほか、首都圏との往来も極端に少なくなってきたことから、あらゆる業界に影響が出たと認識しております。大卒では、製造業等につきましては、自動車の生産減少に伴い、受注が減少してきたということ。それから、何といたっても自粛ムードが高まりまして、春頃から飲食店への打撃が非常に大きかった。また、海外との流通が滞ったことによりまして、建築資材のほうの不足が生じてきたということで、いわゆる一般の住宅建設に携わっている部門で非常に経営の圧迫が生じてしまった。もう一つは、外出を控えるという風潮が出てきましたので、特に交通事業者、タクシー業界などに影響が出てきたと認識しております。

このように、昨年春の第一波が過ぎまして、いつとき消費活動が再開されましたけども、すぐに夏前に第二波ということで起こりました。その結果、ようやく経済が動き出したのが夏が過ぎてからということで、その頃、製造業につきましても、自動車部品の受注が出てきたりということで、各部品製造が動き始めたと同っております。従前の回復までには至ってはいませんが、国の雇用調整助成金、それから帰休の制度などを使いましてつないできているという状況だと認識しております。

また、飲食、小売、サービス、交通、いわゆるサービス関連の業種につきましては、特に夏以降ですが、当市が行いましたプレミアム付商品券、また、国及び県のほうで各種G o T oキャンペーンというものを開催した結果、秋頃からは徐々に経済が動き出してきて感じがしております。特にプレミアム付商品券につきまして

は、市内の、特に店舗経営、飲食店の方々から非常にありがたい政策だったということでお言葉をいただいているところでございます。

しかしながら、年末から第三波ということで、年末年始にかけてまた再度自粛ムードが高まってきたことによりまして、また、出歩いて飲食するということがどうもいけないのではないかという風潮が広まったと思います。その結果、長井市内の年末年始以降の店舗を利用するお客様がやはり激減しているという状況でございます。特に夜の飲食店については非常に苦慮しているという、直接のお言葉を伺っているところです。

また、この3月、緊急事態宣言も延長のような様相もありまして、今後、卒業式を祝う会、それから歓送迎会などの懇親会がまた自粛ムードが高まってくれば、飲食店以外にも、花屋さんであったり、あるいは看板屋さんであったり酒販であったり、さらには波及するところは医療や靴屋さんに至るまで、この辺の業界が2年連続の打撃となるのではないかと心配はしているところでございます。景況については以上のような認識をしているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 商工観光課長がおっしゃるとおり、第三波の影響を受けているということが本当に分かります。飲食店に行きますと、やっぱりがらがらです。長井市には緊急事態宣言とかの営業自粛はないはずですが、やはり課長おっしゃるように、風潮というか風評というのは本当怖いものだなとっております。飲食店も大変なのですが、例えば飲食店に納品している業者についてなどはどのように考えられていますか、商工観光課長にお聞きします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 飲食店以外のところへの支援ということなのですが、まず、今の市内の経済状況のお話をさせていただきましたけど

も、やはりもう1回、飲食業への支援が急務ではないかなと感じております。先日、長井麺類飲食組合さんからも今年度2度目の要望書を頂戴いたしました。やはり皆さんかなり苦慮されているということで、その中でも、先ほどもお話ししましたが、特に夜間営業の飲食店の皆様からは、もう限界であるという言葉も出てきているところでございます。このような状況ですので、まず飲食店への支援というのがやはり大事かなとっておりますし、消費拡大を行うことで、結果としてそういった飲食店への納入されている事業者さんにも効果が出るものと思いますので、最初に飲食店への支援かなと考えております。

あとは、消費をいかに促進するかというのが非常に大切なことになると思います。利用するお客様にとりましては安心感が得られるよう、昨年行いましたおたがいさまネットワーク、こちらの利用者数も大分増えているようでございますので、こちらをさらに促進させまして、消費環境づくりについては店舗経営者の皆様にもご協力いただけるように、ますます進めたいなと思っております。

納入業者さんも多くの方が小売もやっつけやるといふところが多いかと思っております。小売とか、全般的には別の形で経営支援を行ってまいりたいと考えておりますので、今後ともこのまちが維持できて発展していくためには何が必要なのか、関係団体とも協議しながら検討して進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 支援につきましてはぜひお願いしたいところですが、どこまで支援していったらいいのかという点はすごく私たちも大変なところでありますが、やはり飲食店に出入りしたい人たちはいると思うんです。その

ためにも、どうやってソーシャルディスタンスを取って飲んだり、例えば時間をちょっと短くしたりとか、大きい声を出さないように5人ぐらいですとかというのをもっと市民の方に分かっていただかないと、ずっとこのままで、やっぱり飲んで駄目なんだという意識がずっと高いです。その辺につきましては商工観光課長はどのように考えていらっしゃるでしょうか。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 いわゆる行政として一番ちょっとその辺の部分がなかなか対策として思い切っただけでできない部分ではあります。ちょうど商工長井3月号が出まして、2ページ目、3ページ目に今年度の経済対策の状況報告が出ております。長井市と長井商工会議所で行いました長井市まち歩き安心サポートシステム、通称おたがいさまネットワークと言っておりますけども、こちらの結果を見ますと、まずスマホでそのページを開いた回数が17万3,000件までカウントできているようです。そのうち、開いて見ただけでなくて、どこかの店をクリックした回数が、ここが極端に下がるんですが、2,000弱になります。ですので、まだまだ利用者側もお店側もお互いに信頼感というのがまだ行き渡ってないのかなという感じがしておりますので、これについては長井商工会議所の事務局長とも何回ともなく話し合っておりますけども、何とかしっかりとした対策の下で、安心して飲食できる状況を、そういった風潮をこの長井のまちにつくっていけないかなと考えております。様々な方のご協力が必要になってきますので、よろしくお願ひしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 行政としては、こちらからどんどん飲めよというわけにはいかないと思っておりますので、しっかり長井商工会議所とも連携しながら進めていくべきではないかと思

ます。本当に皆さんが支援を求めています。でも求めても、どこまで支援していいのかわからない状況です。長井市は東京とか大都市の自粛とはちょっと違うと思っておりますので、その辺をしっかりと頭に入れていただきまして、支援にも結びつけるような対策を練っていただきたいと思っております。私たちも頑張っているいろんなことをしたいと思っておりますので、ぜひお願いいたします。

次ですが、こういうときだからこそ地産地消というのを私は求めるのではないかと思います。単価だけの問題ではなくて、地元で製造しているものも多くあり、アフターコロナだからこそ地元業者との一体感が必要ではないかと思っております。市長はその点どのようにお考えでしょうか、お聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員おっしゃるとおりなんですけども、先ほど来、何回か紹介させていただいたんですけども、電子地域通貨の「ながいコイン」、こちらについては1,000円を1,000名限定ということで、たった100万円ではございますが、これはNTT東日本からご提供いただいて、まずはデータを取っていただくということなんですけども、やはり議員おっしゃるように、地域内で循環する、地域のことを地域内で、市民がみんなで買物したり食事したりということが大切なんだと思っております。コロナ禍での地産地消が大切ということについては、菜なポートの売上げも好調に維持できておりますので、ますます市民の皆様にご利用いただけるように、道の駅も含めて、地場産品を主に扱っているのはやっぱり道の駅とか菜なポートだと思います。そういったことによって農家とか、あるいは食品加工、あるいはお総菜などを作っている方々がうまくお金が循環できるということだと思いますけど、こうした地域内の消費を進めるために、ただいま申し上げま

した「ながいコイン」、こういったことは市内の消費を維持していく方法の一つとして有力だと考えておりますけども、スーパーとか小売のほうはよっぽどいいんですけども、先ほど来あったように、飲食については本当に駄目だという世論ですよね。テレビ等でも、今回の緊急事態宣言も、油断してみんなが会食行ってクラスターになったりとかということをやっぱり皆さん警戒しておるわけですので、これは何とかここは耐えしのぐしかないのかなと。私どもも、例えば昨年暮れの忘年会とか、あるいは年初めの新年会とかしたいわけですけど、5人以上集まって会食したなんていったらそれこそ大変なことになるわけで、そういう風潮はまだ変わらないと思います。したがって、議員おっしゃるように、少しでも地域内にお金が回るように、できるだけ地場産品等々について我々も意識して購入したり使っていくということが重要だと思っております。

なお、昨年、ゴールデンウィーク中にユーチューブを利用して三山ひろしさんのご協力の下、けん玉と地場産品のプレゼント企画を行ったんですけども、申込方法を置賜地域地場産業振興センターのオンラインショップ上で行ったことによりまして、通販部門の販売が伸びました。こうしたコロナ禍であるからこそ伸びる販売方法もありますので、地産地消と併せて全国への販売も進めていくべきだと考えているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 やはり市内で回すのも大事だし、よそからのお金を投入するというのもすごく大事だと思いますので、ぜひ、ユーチューブなどを生かして長井市の活性化につなげられればいいと思いますので、よろしく願いいたします。

市内業者の中には事業承継で悩んでいる方が数多くいらっしゃいます。アフターコロナだか

らこそ長井市はいいまちだぞって、帰ってこいよって言えるような、自営業者がどんどん増えてほしいと思っておりますが、ただいま市長からいろいろと対策を言っていただきましたけども、その点につきましては、市長の考えはどのような考えでいらっしゃるかお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 これも鈴木富美子議員おっしゃるとおりで、今、本町の街路事業、間もなく、令和3年度終了めどというふうに聞いておりますが、その後、駅前通りの街路事業も要望しておりますが、残念ながら来年度は採択はしていただけなかったようでございますけども、若い店主なども後継者として頑張ってる方もいらっしゃいますし、まちづくり会社をつくったりして新たな事業に取り組もうという意欲を持っておられる方もございます。ただ、一方で、やはり自分の後継者がいないということで、自分がやってきた店はこの場限りで終わりだという店主なども、特に本町の街路事業を進めて何店舗かあったわけですね。ここについては、やはり今なかなかまちなかのにぎわいがつくれない状況でございますが、今後、もう少し私どもとしては行政のほうでこ入れをして、やがて民間と一緒に様々な事業を展開することによって、これはぜひ長井市のまちなかでいろんな商売やってみたくと、小売業、飲食業やってみたくという、そういうビジネスチャンスができるようなところまで頑張っていかなきゃいけないんだと思います。今の状況でやってくださいって言っても、なかなか難しいんだと思います。ここは我々行政じゃなくて、むしろ商店街、あとは長井商工会議所、この辺が中心になって、やっぱり自分たちのことでありますので、我々行政のことでもありますが、私どもとしてはそういうビジネスがしやすいように中心市街地活性化基本計画を立てて、これ、なかなか

か大変なんですよ。山形県内で私ども含めて5か所しかもらってないわけですから、そう簡単に取りれるもんじゃないんですよ、実は。それによって様々な民間の皆様の補助を受けることができる。

あと、これから、今やってる病院もそうですが、公共複合施設や駅周辺の道路の整備など行う都市構造再編集中支援事業という、これは国土交通省の補助事業なんですけども、これも民間が事業主体となってやれるんですよ。ですから、そういったチャンスを私どもつくっていきたいと思いますんで、その中でやっぱりぜひやりたいと思ってもらえるように、私どもが条件を整備するとともに、長井商工会議所さん中心に、あるいは商店街の人たち中心に自分たちで何とかしようと、できなかつたら外から来てもらってもいいからやると、そんなことを考えていかないと、まちはいつまでたつてもにぎわいはできないと思いますし、他力本願のまちなになると、こういうふうに思っております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 確かにまちなかのにぎわいを取り戻すのはなかなか難しいですが、今、ふるさと長井会の若い人たちがいろんな方面でいろいろ活躍なさっているように見えますが、そういうところをもっと後押しというか、お金を出せと言ってるわけじゃないですけど、もっと行政といろんな情報交換したり、そういうことを発信して行ってほしいと私は思っておりますので、ぜひ、その点も含めて力を入れていただければなと思っております。

じゃあ、最後に新型コロナウイルス感染症の対策に戻りますが、今後、市民や事業者に対しての支援などにつきましては、何か特別考えていらっしゃるかどうかどうか市長にお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

今回、3次にわたりまして地方創生臨時交付金というのが国の補正で、3次補正まで含めれば100兆円規模なんですけども、それらについては全て国のこういった新型コロナウイルス感染症の拡大に対する対応として、いわゆる赤字国債メインなわけですね。ところが、それを我々地方自治体は発行できないわけですよ。したがって、国は地方創生臨時交付金という形で3次にわたって支援してきたと。とりわけコロナの対応については都道府県がメインで対応するということが窓口になりましたので、私ども市町村の倍以上厚く支援がいております。ですから、今回のコロナ対策の支援は県費じゃないんですね。国から来た財源を使って山形県が独自にいろいろやっていると。それに対して私どもも県と協調しているんなこともやってきたと。ですから、これから何かできるものあるかっていったら、財源がないんですよ。今回の3次の補正は1億九千四、五百万円ぐらいいただいたわけなんですけど、何回も繰り返しになりますけども、1億円以上が、半分以上がそういった県と協調した事業によって、思わぬ形ですごく増えてしまったと。それでもう身動きできない状況ですので、したがって、定額給付金とか子育て世帯の臨時特別給付金というのは、本当にこれは私どももしてあげたいんですけども、もうそんな余裕がないと。

例えば今から七、八年前ぐらいにこういう状況でしたら、財政調整基金も一時7億円とか、あとは公共施設整備基金も少し積んだりもしてましたので、その中から何とかできたのかもしれないんですけども、度重なる様々な災害対応とか豪雪に対する対応とか、そして今は公共事業整備を計画的に進めてるわけですので、そういったことで、私ども特にそういういざというときの財源が非常に乏しいということで、これは国と一体となって対応せざるを得ないと思っております。そのところはぜひご理解いただきたいと

思うんですね。何か私ども市が特別にやっ  
てるというのではないです。これは全て、ど  
この市町村も基本的には国の地方創生臨時  
交付金という形で支援いただいているお  
金で対応していることが原則です。ただ、  
潤沢な資金がある自治体もちろんあるわ  
けで、そういったところについては独自  
の施策をやれる場合もあるんですけども、  
なかなか私ども市は難しい状況にあるの  
かなと思って考えております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 市長の話をお聞  
きして、なかなか大変だと思います。ほ  
かの市がいろいろ新聞に載ってくると、  
市民から何で長井市だけしないのって、  
こういうことをやっばり言われること  
がありますので、そういった事情も含め  
まして、やはりもっといろんな方法で  
市民の方にご理解いただくということも  
必要だと思いますので、よろしくお願  
いします。

3項目めに入らせていただきます。

全国でも珍しい駅舎と一体となった新市  
庁舎が、3月末に完成するわけですが、  
避難所機能もあったり、市民の期待も大  
きいかと私は思います。コロナ禍が収  
まれば、公共施設や庁舎を検討中の自  
治体など行政視察が再開されると思  
います。長井市を全国に積極的に発信し  
、視察等を受け入れることよりまして、  
旧長井小学校第一校舎や長井ダム遊覧、  
けん玉等を組み合わせ上、交流人口、  
観光事業のチャンスと私は捉えており  
ますが、市長はどのようにお考えでし  
ょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員おっ  
しゃるように、これから庁舎を建設す  
る自治体も少なからずあると思いま  
すので、私どももいろんな庁舎の建設  
されたところを見せていただきましたよ  
うに、ある程度は望めるだろうと。た  
だし、いわゆる視察というよりも、一  
番期待するのは観光での、フラワー長  
井線に乗って駅と一体とな

った庁舎を見るということでの企画で、  
多分、庁舎を行政視察するというより  
もずっと多いと思っております。現実  
的に、駅と一体となった鉄道用地内に  
ある市庁舎っていうのは全国で間違  
いなく長井市だけだと思いますんで、  
一部JRなんかと一緒に、いわゆる駅  
ビルの中に役所の一部を設けてるって  
いうところは若干ございますけど、市  
の庁舎とか町役場が一体となって鉄  
道用地に建ててるっていうのは長井  
市だけですし、もしかしたら世界的に  
も珍しいのかなと思っておりますので、  
そこをフラワー長井線と連携しながら、  
あとやまがたアルカディア観光局の  
旅行商品としてぜひ生かしていける  
んじゃないかなと、そんなふうにと  
考えているところですが、おっしゃ  
るように、やっばりPRをいろいろや  
っていくと。昨日もお話ししました  
けども、この庁舎も非常に珍しいとい  
うことと、あわせて、シティープロ  
モーション、天然水100%子育て  
ライフながいですよ、そのキャッチ  
フレーズと、あとけん玉が市技の長  
井市というところを、けん玉につ  
いては三山ひろしさんがけん玉大使  
ということで、そういったところぐ  
らいしかないわけですよ、我々の  
売りというのは。アヤメをまちの  
象徴にしている自治体であやめサ  
ミットというのをやってますが、  
全国やっばり十幾つあるわけですよ。  
そういう競争になりますんで、です  
から、いろんなところを使って、私  
どももみたいなまちはあの手この  
手でやっばり果敢にチャレンジする  
しかないのかなというふうに思っ  
てるところでございますので、また  
いろいろとご助言などいただければ  
と思います。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 やはり全  
国で初めてと先ほどおっしゃいま  
したけど、確かに一体となっている  
のではないと思います。ぜひ、市  
長がおっしゃるように、視察だけ  
でなくフラワー長井線という強  
みを使って、秋の風景、春の風景

様々変わります。そこにダムの船に乗せていただいたりすれば、あと田舎暮らし、今、はやっておりますので、まだまだ観光、交流人口が増える可能性、長井市には本当いっぱいあると思いますので、ぜひ、交流人口増やすためにも、観光だけじゃなくやはりいろんな手、あの手この手で田舎暮らしを売ったり縄文村を売ったり、そういうところでぜひ頑張っていかなければいけないなと思いますが、市庁舎につきましては、庁舎の長さも珍しいかなと思っております。ぜひ、それも併せまして交流人口を増やしていただければと思います。やはり人口が増えることによって、交流人口があることによって、移住定住も含めた上でいろんな面で支援していただけるのではないかなと思いますので、市民一体となってやはりこれは皆さんで考えていくべき問題だと思いますので、今後ともよろしく願いしたいと思います。

私の質問は以上です。

## 内谷邦彦議員の質問

○平 進介議長 次に、順位9番、議席番号8番、内谷邦彦議員。

(8番内谷邦彦議員登壇)

○8番 内谷邦彦議員 政新長井の内谷邦彦です。施政方針について市長に質問いたします。

最初に、人口減少問題に関して伺います。

ある資料によると、人口減少には大きく3つの要因があるとされています。厚生労働省が公表した人口動態統計概数によると、2019年の出生数は統計開始以来最少の86万5,234人で、前年から5万3,166人も減少、90万人を切ったのは初めてのことで、女性1人が生涯に産む子供の推定人数、合計特殊出生率は1.36、出生数から死亡数を引いた人口の自然減は51万5,864人

となり、減少幅は過去最大となりました。政府は昨年5月に閣議決定した第4次少子化社会対策大綱で、若い世代が希望どおりの人数の子供を持てる希望出生率1.8を目標に掲げ、不妊治療に係る費用負担の軽減などを提言しています。政府は人口減少と少子化を同じ事象であるかのように話していますが、現在の人口減少の原因は、少子化が主たる原因ではないのではないかと個人的には考えております。

今回発表された数字の中で注目すべきは死亡者数で、138万1,098人という数字は過去最大となっております。まずこの事実を押さえる必要があるのではないかと考えます。日本で死亡者数の増加が顕著になったのは1980年代半ばぐらいからで、これは戦前、軍部が産めや増やせと奨励した際のベビーブームの世代が高齢化し寿命を迎え始めたからで、そしてそのベビーブームの後には戦後のベビーブームが控えています。したがって、この死亡者数の大幅な増加は2046年頃まで続くと見られています。つまり、現在進行中の死亡者数の急増は、言ってみれば人間に寿命がある以上避けられない自然減少であり、少子化ではなく死亡者数の急増こそが現在の人口減少の主因なのではないか。だから、言ってみればどうにもならない減少で、これが1つ目の要因と言えるのではないのでしょうか。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を見ても、死亡者数が減り始め、出生者数の減少が人口減少の主因となるのは2030年代の半ば以降であることが分かります。ところが、政府もマスコミも人口減少と聞くとすぐに出生者数の減少の問題だと思い込んでしまっているのではないのでしょうか。もっと冷静に2つのファクター、つまり死亡者数の増加と出生者数の減少のそれぞれが今どうなっているか、事実を押さえ分析することが必要ではないのでしょうか。

ここで出生率を考えてみるとどうなっているのか、合計特殊出生率は2005年に1.26まで落ち